

# 4位で信夫杯出場権

## チーム一丸 3位に1打差



岩本主将のティーショット

4位。信夫杯争奪日本大学対抗戦(10月27、28日、千葉カントリークラブ)の出場権を獲得した。

岩本主将はチームトップタイの70(パー71)でホールアウトし、チームの復讐を果たした。岩本は「一部(飛田翼文2)写真も」

「初出場が緊張したが、一戦一戦を懸命に戦い抜いてきた」と、信夫杯に向けて意気込みを語った。

また女子は9月6、7日に行われた関東女子大学秋季Bブロック対抗戦で優勝し、Aブロックへの復帰を果たした。

2カ月に及ぶ長い戦いが開幕し、専大は1部復帰に向けて3連勝スタートを飾った。

# 1部復帰へ 3連勝発進



突破する並木淳(商2・東京高)＝白鷲大戦

「開幕から無失点勝利」はならなかったが、全試合でベンチ入りメンバー全員を起用。村田監督は「2部を圧倒的な強さで制し、入れ替え戦でも優勝できるチームをつくらせたい」と話した。昨年の悔しさをバネにチームは絶好の滑り出しを切った。この勢いを継続させ12月突進していく。

# 桶田・谷澤ペアベスト4

東日本学生バドミントン選手権個人戦。9月8～15日、札幌市・北海きたえーる。今シーズン好調の桶田彩乃(商2・西武台千葉高)・谷澤安衣(商1・日本橋女学館高)ペアがベスト4に入賞した。

2年連続ベスト4(昨年は遠征ペア)の桶田は「今年も結果を残したい」と話した。

進むも、今秋の関東学生リーグ戦で敗れた早大ペアに惜敗。しかし、全日本学生選手権(10月14～20日、千葉市・千葉ポートアリーナほか)での活躍に期待が持てる試合内容だった。

「今年も結果を残したい」と話した。

「今年も結果を残したい」と話した。

# 織田実力発揮しV

関東学生アーチェリーフロンティアカップ。9月12～13日、埼玉県宮代町・はらっぱパーク宮代。女子・個人戦で織田真理子(文3・大宮開成高)が優勝を果たした。

「緊張せずに力を発揮できたことが、優勝につながった」と振り返る織田は「次の大会でも実力を発揮できるように今後を頑張りたい」と話した。

「緊張せずに力を発揮できたことが、優勝につながった」と振り返る織田は「次の大会でも実力を発揮できるように今後を頑張りたい」と話した。

「緊張せずに力を発揮できたことが、優勝につながった」と振り返る織田は「次の大会でも実力を発揮できるように今後を頑張りたい」と話した。

# 最下位脱出を期待

東都大学野球秋季リーグ戦。9月5日、10月26日、神宮球場。第5週(10月4～6日)で日大に1勝2敗で敗れ、専大は勝ち点0(2勝8敗)の単独最下位。しかし、暗闇の中にも光はある。

「今年も結果を残したい」と話した。

「今年も結果を残したい」と話した。

「今年も結果を残したい」と話した。

「今年も結果を残したい」と話した。

「今年も結果を残したい」と話した。

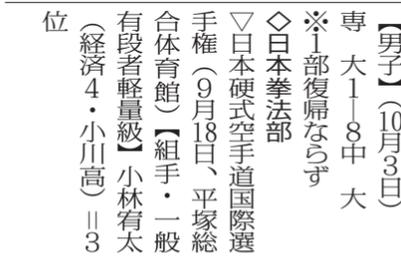
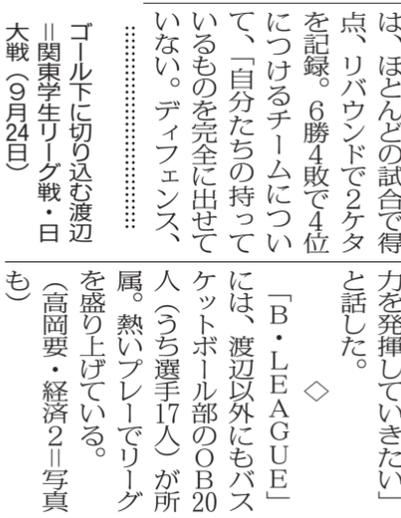
# 渡辺がベンチ入り

プロバスケットボールリーグ「B・LEAGUE」の歴史的開幕戦(9月22日)に、琉球ゴールデンキングスの特別指定選手として渡辺竜之佑(経営4・福岡第一高)がベンチ入りした。

「観客が多く、全てに勝つ点差は1だが、リーグが混戦状態のためインカレ出場の6位以内も十分狙える。」

「観客が多く、全てに勝つ点差は1だが、リーグが混戦状態のためインカレ出場の6位以内も十分狙える。」

「観客が多く、全てに勝つ点差は1だが、リーグが混戦状態のためインカレ出場の6位以内も十分狙える。」



「観客が多く、全てに勝つ点差は1だが、リーグが混戦状態のためインカレ出場の6位以内も十分狙える。」

「観客が多く、全てに勝つ点差は1だが、リーグが混戦状態のためインカレ出場の6位以内も十分狙える。」